



相ノ木っ子だより

令和元年度
学校だより
1 月 号
上市町立相ノ木小学校

子供たちの居場所はあるのかな？

「おはようございます。そして、あけましておめでとうございます」

始業式で、子供たちの元気な顔を見渡ししながら、子供たちと2020年の幕開けを祝いました。そして、3学期に取り組んでほしいこととして、「誰もが楽しく、安全で安心して過ごせる学校を目指そう。そのために、互いの違いを認め合い、楽しさや喜び、悲しさや寂しさを友達と共有していこう」と話しました。「友達に嫌な思いをさせて自分が楽しくなるなんていうのはいけません。みんなで思いや感情を共有することで楽しさは倍増し、悲しさは半減します。そんなつながりを大切にしていこう」と子供たちに投げかけました。

近年、SNSで知り合った大人に子供たちが誘拐される事件が起こっています。子供たちのSNS等のデジタル機器使用にとっても不安を感じてしまいます。また、相手の甘言によって遠くの地まで付いていくことに恐怖心や猜疑心が起こらないものか、被害にあった子供たちの心理が不思議でなりません。そして、最も気になるのは、助け出された子供たちが家に帰りたくないと言っていることです。

アメリカの心理学者ウィリアム・ジェームズは、次のように言っています。

**人間のもつ性情のうちで最も強いものは、
他人に認められることを渴望する気持ちである。**

また、清水佑三氏も、著書「心の中の忘れもの」でこう言っています。

**人がなぜ友だちを必要とするかといえば、
ほめてくれる人がいないと人は生きてゆけないように作られているからなのです。**



人間が最も必要とする承認欲求。家に帰りたくないと言っている子供たちは、それが十分満たされていないのかもしれませんが。子供が学校や家庭に居場所がないと感じていることは、とても悲しいことです。自分は認めてもらえていないという喪失感が、SNS等に救いを求めさせているのではないのでしょうか。そう考えると、SNS等の使用に原因があるのではなく、子供にとって心から安心できる居場所がないことに大きな問題があるように思います。

「不登校の子が夜中にゲームをして昼夜逆転の生活になってしまうのは、学校に行きたくないからそうするのである」と、ある書物に書いてありました。はっとさせられました。わたしたちは、SNSやゲームといったものに不登校の原因を見出そうとしがちです。それらをやめさせる、制限させることで子供たちを守ろうと考えてしまいますが、子供たちがそれらに救いを求めているとしたら、大きな間違いを犯していることになります。その子の居場所をちゃんと確保してあげることが最も重要ではないのでしょうか。

始業式に「互いの認め合い」「性情の分かち合い」を子供たちに投げかけたのは、しっかりと相手の顔を見て、本音を出し合い、理解し合うことの大切さを実感してほしいと思ったからです。対話を重ね、きちんと人間関係を築き上げていけば、友達や先生という大切な承認欲求を満たしてくれる対象が存在し、学校での自分の居場所を見つけることができます。これは、家庭における家族の存在も同様です。そういった認め合い、分かち合いの積み重ねによって、子供たちの自己有用感はずいぶん違ってくると思います。SNS等に救いを求めるようなことはきっと回避できるでしょう。

**物を見るのには隔たりをおく必要があるが、
交際をする際にもまた、隔たりをおかねばならぬ。**

これは、フランスのモラリスト、ラ・ロシュフコオの言葉です。自分にとって居心地のよい相手と友達になりたいのは、人の常です。しかし、自分が思うようにはなかなかいきませんし、生身の人間同士が付き合う時には、衝突したり歯がゆい思いをしたりすることもあります。それでも、自分が傷つくことを恐れずに、人との付き合いに積極的になることが大事ですし、よりよい関係に向けて、互いの本音をぶつけ合うことも必要です。そういった経験を通して、子供たちには、相手のこと、自分のことを理解し、互いの存在感、有用感を高めていってもらいたいです。

相ノ木っ子の「働き方改革」

「みなさん、こんにちは。これからアライブを始めます」「今日の給食ポイント！」「今日の挨拶上手さんを発表します」「今日の担当は、□年〇〇と△年〇〇でした」

給食時間に校内テレビ放送番組「A L I V E」を行っています。広報委員を始め、各委員会の担当者たちは、手振りを交えるなど工夫し、滑舌のよいアナウンスをしています。一昨年度途中からテレビ放送を復活させ、昼の放送や校内表彰等で活用しています。それまでは、マイクを使った音声だけの放送、校長室での表彰式でした。古くは、テレビ放送をしていたのですが、ある時期から放送室機器の関係でできなくなったようです。やはり、声だけでなく、映像を意識した方が表現力も高まるし、表彰もみんなに見てもらった方がよいと考え、業者の方に相談したところ、意外と簡単にテレビ放送を復活させることができました。子供たちの表情豊かな放送や表彰式でのうれしそうにカメラを意識している様子を見ると、「テレビ放送を復活できないだろうか」と思いつき、できるようにするためにちょっと尽力してよかったなと、つくづく思います。

他にも、子供たちや学校のために工夫してきたことがあります。例えば、職員室に設置した丸テーブルです。以前、そこには長方形の大きな机があり、来校者と隣り合って座っていました。丸テーブルに変えたことで、多人数が向かい合って話し合うことができ、また時には職員が集まって語らうこともできるようになりました。渡り廊下の掲示板もしっかりとしたものに変え、貼りやすく、見やすいものにしました。職員室前廊下の先生方の作品展示コーナーも、季節によって子供たちを楽しませるものになっています。相撲大会やけん玉大会等の学校行事のもち方や日程の見直しもそうです。「工夫できることはないかな」そんな気持ちで校内を見回したり、行事について考えたりすると、「〇〇があったらいいな」「〇〇がよりよくなったらいいな」という思いをもつようになります。そして、ちょっと工夫してみると、いろいろ改善することができたように思います。

さて、我々教員の世界もそうですが、日本社会において働き方改革が急務となっています。働いている現状を考えると、確かに勤務内容や勤務時間等、自分たちの働き方を見直し、改善していく必要があります。しかし、忙しくなったのは最近になってからというわけではありませんし、「働き方改革」と声高に叫ばなくても、より快適な労働環境を目指すことは当たり前のことだと考えます。最も大事なことは、働き甲斐があるかどうかであり、心に張りをもって勤務しているかどうかではないでしょうか。ご家庭でも、ちょっとした模様替えや整理整頓によって、過ごしやすくされているでしょうし、きっと子供たちの学習や活動自体にも言えることだと思います。自分の身の周りを見渡したり、学習や活動の振り返りをしたりし、少しでも効率よく、快適に過ごせる工夫を見つけていくことが、子供たちの心にやる気や余裕を生むように感じます。

何も持たずにオーストラリアの砂漠を4か月間旅したアメリカ人のマルモ・モーガンさんは、次のように言っています。

人生はセルフ・サービスだ。

自分の人生を豊かにするのは自分であり、

そうしようと思えばいくらでも創造的で幸せな人生が送れるのだ。



何かしらの工夫をして、より素敵で、より快適な暮らしを送るためには、まず自分自身がそういった目で身の周りを見渡すこと、そして、改善していこうという意欲を高めることが重要ではないでしょうか。

また、自動車会社やナセの会長梁瀬次郎氏は、「心を創る七つの言葉」で次のように言っています。

時の進みは速いものです。

この速い人生を、幸せに過ごすかどうかは、実は簡単なことです。

「いまからでも」と「いまからでは」が人生の大きな分かれ道になってきます。

「これまで慣れ親しんだ生活や習慣を今さら…」と思うのではなく、どんな年齢になっても、「今からでも、やってみよう」という、よりよいものへの向上心を育みながら子供たちには成長してほしいと思います。

みんな、自分・学級・学校・家庭をよりよいものにするために、いざ「相ノ木っ子の働き方改革」を！

行事予定 (1月中旬～2月中旬)

1月16日(木)	来入児体験入学(1・5年)	2月3日(月)	スキー教室(3～6年)
17日(金)	特別支援学級合同学習会	5日(水)	租税教室(6年)
22日(水)	3年校外学習(東部消防組合)	6日(木)	中学校体験入学(6年)
23日(木)	なわとび検定	7日(金)	学習参観・学級懇談会
28日(火)	要請訪問研修会(5年)		下校 15:30
	下校 13:20(1～4年、6年)	11日(火)	建国記念の日
	14:45(5年)	13日(木)	けん玉大会

